

## 仲間とふれあって、協力することの大切さを学ぶ体験活動

山口県周南市立福川南小学校

### 学校の概要

#### ① 学校規模

- 学級数：14学級
- 児童数：391
- 教職員数：20
- 活動の対象学年：5年生

#### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は、周南市の西端で、夜市川河口沿いに位置している。周南工業地域の発展にともなう人口の増加で、昭和55年4月に福川小学校から分離した。

校区内の住民の多くはサラリーマンが主であり、農業人口はわずかである。地域住民の学校教育に寄せる関心は高く、学校に対してもきわめて協力的である。共働きの家庭が多く、都市型地域としての特徴をもっている。

- 本地域は、一昨年まで幼保小の連携の指定を受けていた。小学校の隣が幼稚園で、保育園も近くにある。そこで、幼保小の連携にかかわる取組を現在も行っている。

#### ③ 連絡先

- 〒746-0052
- 電話：0834-63-8230
- FAX：0834-64-3654
- ホームページ：
- 電子メール：fukumnsho@shunan.ed.jp

### 体験活動の概要

#### ① 活動のねらい

- 国立山口徳地青少年自然の家での宿泊による仲間とふれあう体験活動
  - ・ 共同生活のめあてをもちながら、寝食を共にし、協力することの大切さを学ぶ。
- 幼稚園児・保育園児の交流活動
  - ・ 幼い子どもを思いやりながら、こいのぼりをあげる活動をし、交流を深める。
- 仲間と探求心を育てる活動
  - ・ 「自動車工場・博物館を仲間と見学し、体験しよう」では物づくりの最新の現場を見学したり、いのちのすばらしさを学んだりする。
- 環境緑化と食育体験活動
  - ・ 「そばの種を蒔いてそばを育て、そば打ちをして食べよう」では、育てたそばの実を挽いて粉にし、打ったそばを食べ伝統的な食文化の体験をする。

#### ② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- 協力し、仲間づくりをする活動  
(総合的な学習の時間14時間、図工2時間、特別活動2時間)
- 食育にかかわる活動  
(総合的な学習の時間12時間)
- 探求心を育て、物をつくる活動  
(総合的な学習の時間3時間、理科2時間、図工4時間、社会2時間)

## 1 活動に関する学校全体の計画

### ○ 活動のねらい

- ・ 仲間と集い、協力することの大切さを体得し、交流を深める。  
食べ物への関心をもち、食事をつくることを通して、食の大切さや大変さに気づかせる。
- ・ 天体に興味をもったり、物づくりの楽しさや厳しさを体験したりしながら、探求心を育てる。

### ○ 全体の指導計画

○ 実施学年：第5学年67人（幼稚園児18人、保育園児33人）

活動月日	活動内容	教育課程上の位置づけ	活動時間数
5月1、2日	幼稚園・保育園児と いっしょに夜市川に こいのぼりをあげよ う	図工 総合的な活動の時間	2時間 3時間
6月10日～8日 6月11、12、13日	宿泊学習事前指導 宿泊学習 オリエンテーリング ・キャンプファイヤ ー・カレー作り、天 体観測・焼板づくり	総合的な学習の時間 理科 特活 図工 総合的な学習の時間	2時間 2時間 4時間 1.5時間
9月16日	そばの種を蒔こう	総合的な学習の時間	0.5時間
9月～11月	そばの水やり・間引 き・草抜き		
11月21日	自動車工場、博物館 を見学し体験しよう	社会 総合的な学習の時間	2時間 3時間
11月28日	そばを刈って干そう	総合的な学習の時間	0.5時間
12月11日、13日	そばうち体験をしよう	総合的な学習の時間	4時間
12月18日	これまでの活動をふ りかえりまとめよう	総合的な学習の時間	1時間

## 2 活動の実際

### ○ 事前指導

宿泊学習では、活動のねらいをはっきりさせ、協力できるよう仕事の分担について、細部にわたり話し合わせた。お互いに活動の場があり互いのよさが生かせるように、活躍できる機会を増やした。

その際には、活動のねらいをはっきりさせ、全体の見通しをもたせた。事前に調べ、協力して意義ある活動になるようにした。

○ 活動の展開



#### ○ 事後指導

体験をした後では、活動のねらいをもとにして、自己の変容を振り返った。そして、協力することの大切さに気づいたことは、日常の学校生活での係活動や委員会活動などでも生かされていた。いろいろな場で、友達のよさを見つけ、よさを紹介し合うことで、充実感を感じることができるよう支援した。

### 3 体験活動の実施体制

#### ○ 学校支援委員会

原案を教務・5年生担任2名で作成し、それを学校支援委員会（校長・教頭・教務・5年生担任）で検討し、体験活動の実施にあたった。それぞれの活動では、活動を支援していただける専門の分野の方々力を借り、達成感や成就感をもたせるように工夫をし、価値ある体験活動を仕組んだ。

#### ○ 配慮事項

活動では、けがや事故を防ぐよう、活動の計画をはっきりさせ、手順についても事前に把握させておいた。火や刃物の取り扱いについては、特に繰り返し指導した。指導する教員も事前に細かく打ち合わせをして、安全面には特に配慮した。

### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

宿泊活動では、仲間と協力している場面をしっかりと認め合うことにより、どんな行動をとればよいのかを明確にした。その際には、以下の方法をとった。

#### ① リボン表彰をする。（活動や生活全般の中で、ねらいをはっきりさせ、以下の行動を見つけたら知らせ、班の旗にリボンをつける。）

リボンは3種類で、『青色リボン：たくましく（すばやく、集合は静かに）、ピンクリボン：美しく（やさしさ、協力、思いやり）、黄色リボン：根気よく（かしこさ、積極性、根気強さ）』とした。

リボン表彰をすることにより、行為の価値付けをした。

#### ② 事後に友達のいいところみつけ新聞を掲示し、よさを互いに知り合う。

いろいろな体験活動の後には感動したことや仲間と協力したことを感想に残した。

活動するときに、子ども同士の間で問題がおきた場合、時間がないときには、すぐに対応できないことがあった。そこで、機会を逃さず、事情を把握し子どもたちで解決しようとする力を伸ばしていった。

### 5 活動の成果と課題

#### ○ 成果

本年度は、宿泊体験での活動を主において、仲間と心ふれあい、共に協力して達成することをねらった。その際には、年間を通してのいろいろな活動を充実させることにより、喜びややり遂げた成就感をもたせながら、長期にわたり、何事にも協力して取り組むことのできる集団を築いていこうと努めた。その結果、これらの豊かな体験活動を通して、仲間が真剣に協力し合い、達成した喜びや感動を共有し、仲間との絆を深めていった。

#### ○ 課題

宿泊を伴う活動に児童一人ひとりのテーマを絞った体験学習を仕組み、事前・事後指導を充実させ、課題の追求を試みさせていきたい。